



人間は、サルの進化したものなの

人間とサルの祖先が、同じだということ

「人間はサルの進化したものだ」という話を、聞いたことはありませんか。

しかし、それは、現在生きているサルが、人間の祖先だということではありません。

人間とサルの祖先が、同じだということで、現在生きているサルのことではないのです。

人間とサルは、同じ祖先の生き物から、人間は人間として進化し、サルはサルとして進化してきたのです。ですから、現在のサルをいつまで飼っていても、それが、人間になるということはないのです。

今の人間になったのは、長い時間の進化

わたしたち人間の祖先が、今のわたしたちと同じ姿で、ある日、とつぜん地球上に現れたのかというと、そうではありません。初めて、二本足で大地に立つ人間が現れたのは、約500万年くらい前だといわれていますが、その人間は、ほかの動物たちと同じように、もとは、もっと原始的なものから進化したものなのです。

わたしたちが、今生きているのは、わたしたち人間の祖先の命が、親から子へ、子から孫へ、孫からひ孫へというように、次々とバトンタッチされてきたからです。

このバトンタッチが、何万回も何十万回もくり返されるうちに、人間など生き物は、体のつくり(構造)や形が変化していきます。このことを、「進化」といいます。

人間も、最初の原始的な生き物から、非常に長い時間をかけて少しずつ変化し、進化しながら、今の人間になったのです。(監修・保志 宏)

